

衣

愛知県注文洋服協同組合

オーダーメイドならではの デザインと技術を追求

きっかけは名古屋汎太平洋平和博覧会

江戸時代末期頃から、主に兵士の軍服や官吏の服装として洋服が着用されるようになります。洋服は和服とは違い立体的に仕立てます。新しい西洋の技術である洋服の仕立てを日本人は積極的に取り入れていきます。

昭和9年(1934)、名古屋は百万人都市となり、東洋一と言われた名古屋駅が完成します。昭和12年(1937)、名古屋港開港30周年を迎え、東山動物園が開園するなど、名古屋は活気に満ちていました。そしてこの年、現在の港区で、インド、東南アジアなどから29か国が参加した名古屋汎太平洋平和博覧会が開催されます。この博覧会への出展を機に、愛知県商工会館講堂で全日本洋服組合大会を開催し、東日本、西日本の連合会を全日本洋服組合連合会に一本化しました。さらにこの偉業を機に尾張、名古屋、東三河、西三河の4商業組合を統合し愛知県洋服商業組合連合会が結成されました。そして戦後に愛知県注文洋服協同組合となりました。

毎年好評を博している職人展での ファッションショー

かつて紳士服の仕立て職は一等職人と呼ばれ、昭和30年代、40年代は紳士服の全盛期で街角ごとにテーラーがあったといわれるくらい繁昌していま



尾張名古屋の職人展でのファッションショー



国際アビリンピックで金メダルを獲得したベテランから若手まで、確かな技術でつくられる高級紳士服

した。当時はオーダーメイドの紳士服が8割に対し、既製服は2割ほどの割合でした。しかし現在では紳士服の多くが既製服で占められています。ただ、オーダーメイドを愛する人々を中心に根強い需要があり、これからも注文服がなくなることはないでしょう。

組合では平成27年(2015)ころから尾張名古屋の職人展で日本デザイン文化協会愛知支部の仲介により高校生や大学生と合同でファッションショーを行っているほか、名古屋市技能職団体連合会などからの委託を受け高校の被服科の生徒や専門学校でデザインを学ぶ学生の実習の受入先として、支援を続けてきました。毎年新年には全日本紳士服デザイナー協会愛知支部、中部日本紳士服技術者団体連合会との賀詞交換会を行い、技術の向上に努めています。なお、現組合理事長は全日本洋服協同組合連合会の理事長も務めています。



ビスポーク愛知で発表された新作

■職種：洋服仕立職 ■組合設立年：昭和12年 ■組合住所：名古屋市中区大須4-11-50 神谷ビル1階
■電話番号：052-262-3000 ■ファックス：052-251-2008 ■ホームページ：――